

航友会だより

会長挨拶	1
平成6年度代議員会報告	2
校長挨拶	2
母校は今	
航空整備科	3
航空電子制御科	3
航空生産科	4
みんなの広場	4
ラグビー部OB会の案内	4

発行 中日本航空専門学校航友会事務局 〒501-32 岐阜県関市迫間1577 中日本航空専門学校内 ☎(0575)24-2521

我が母校「中日本航空専門学校」も今年で二十五周年を迎えることとなりました。航友会だより第五号を、平成元年三月に発行して以来、六年ぶりに第六号を発行いたします。この六年の間に、各務原市へのアクセスが便利になった岩坂トンネルの開通、学校隣地へのゴルフ場オープン、中日本オートスポーツ研修センター跡地への工場誘致等、学校の周辺環境も変化してまいりました。

一方、学校内においても、各学科とも教育内容及び教材の充実化を進めています。一例を挙げますと、航空整備科においては二十年近く教材機として使用してきた名機「FA-200」も平成六年度をもって用途廃止となり、新しくビーチクラフト式E33型に変更されました。(各学科の変化については後述) 本号では、この六年間の変化を中心に盛りだくさんの内容でお届けいたします。

これからも、同窓生との唯一のコミニケーションの場として会報作りに委員一同頑張っていきますので、同窓生諸兄もご協力をお願いいたします。

さて、全国的な規模で活躍している同窓生の中で、クラス、学年を中心とした「縦」の絆は強く、各地で同期会等積極的に取り組まれていることは誠に心強いものがありますが、一方、「縦」の絆はまだまだ希薄であることは否めません。「横」だけでなく「縦」の絆を一層強化し、航空界の中で共に協力しあってこそ同窓会の本来の意義があると思われまふ。

今後も、同窓生の皆様の協力を元に、航友会の活動を盛り上げて行きたいと思っております。



学校施設全景（新たに増築された第二格納庫A）

会長挨拶

上村信雄



梅雨の候となりましたが、同窓生の皆様にはますますご健勝のことと思います。

中日本航空専門学校も本年で二十五年目となり、卒業生は五千三百名を超え、航空界の第一線で活躍されている姿を目の当たりに見て、創立当時を知る者にはまさに隔世の感があります。

昨年、一期生の同窓会時に、本校を見学させていただき、質的にも量的にも、この様に中日本航空専が飛躍的に発展するとは当初だれも想像し得なかつたと思います。改めて同窓生の皆様、そして指導して下さった多くの恩師の方々にお礼を申し上げたいと思っております。

平成六年度 (平成六年八月～平成七年七月) 代議員会報告

平成六年十月三十日、岐阜県関市の本校において、平成六年度の代議員会が、十三名の役員、代議員の参加により開催されましたので、紙面を借りて報告致します。

◎平成五年度事業報告

1. 平成五年三月卒業生住所調査(不明分)

2. 同期生名簿の作成、及び郵送

3. 平成六年三月卒業生の住所調査

※平成五年度の事業は、会を存続して行く上で最低限の活動として住所調査が行なわれたことが報告されると共に、同窓会活動が自粛されていた背景についても報告された。

◎平成六年度事業計画

1. 会員の住所調査、及び名簿作成

① 同期生名簿の作成、及び郵送

② 平成七年三月卒業生の住所調査

③ 会員(全卒業生)の再住所調査

2. 会報の発行(平成七年六月発行予定、発行部数五千部)

3. 支部及び同期会活動の活性化

※平成六年度事業の規模は、久々の同窓会活動の再開でもあり、上記三項目のみの縮小された内容としました。

しかしながら、活動の基盤となる全卒業生住所の再調査を実施することに

より、多くの卒業生に会報が届くよう計画致しました。

◎その他

1. 事務局員の改正について

2. 代議員の構成について

※同窓会活動が自粛されていた間の本校卒業の教員の異動、新規加入により、従来の事務局員構成が現状に合わなくなったため、改正を行なった旨報告された。

また現状の代議員構成が、各学科・年齢(期生)の点で、アンバランスが生じていること等の問題点が挙げられた。よって平成六年度中に、これらを検討した上で人選に入り、平成七年度からは新代議員による会の運営が承認された。

◎代議員会出席者氏名

会長	上村信雄
副会長	浅野敏美
幹事	山田 登
	長谷川恵二郎
	岩本吉則
	安藤弘治
	菊谷 茂
	中村寿志
	吉森文夫
	大村聖彦
地区代議員	勝田正博 (中部)
	齋藤幸博 (関西)
	伊藤信元 (関東)

平成5年度会計決算報告

(収入の部)		
項目	金額	摘要
前年度繰り越し金	16,798,110	
会費	2,050,000	H6年度入学生410名
利息	283,637	定期利息
合計	19,131,747	
(支出の部)		
項目	金額	摘要
同窓生名簿発行費	224,370	総合名簿の発行及び郵送
雑費	206	
小計	224,576	
次年度繰り越し金	18,907,171	
合計	19,131,747	



航友会の発展を祈念して

校長 羽貝 昌 夫



私は、平成四年四月、鈴木英夫先生の後任として校長に就任した羽貝です。

航友会の皆さん、どうぞ宜しくお願い。

中国本航専は、今年で二十五周年を迎え、航空整備科のほかに、航空電子制御科、航空生産科の三学科と留学研究コースを設置し、学生数も約八百名の名実ともに日本一の航空専門学校へと発展しました。卒業生も五千三百名を超え、全国で高い評価を受けつつ活躍しております。

私が就任した当時は、同窓会活動が停滞気味でしたが、最近活性化の努力がなされつつあり、大変喜ばしく思っております。同窓生というものは、年齢がいくつになっても良いもので、久しぶりに会ってもヤア／＼と言いつつ、気の休まるものです。これを契機に全国に散らばって活躍している同窓生同士が再び手を取り合って、良い意味で融和団結して心の寄り所とし、また母校の発展を、後に続く後輩のために応援してやって下さい。皆さんの健康と益々のご発展を祈念致しております。

母校は今

航空整備科

航空整備科では、平成四年四月に佐野通先生が新学科長に就任されました。

施設面では、運輸大臣指定航空従事者養成施設並びに整備経歴認定施設として教育の効率化を図り、より良い教育を行うため平成五年八月、エプロン西側に飛行機が五機程度格納できる第二格納庫兼整備実習棟が完成しました。また、教材機においてもベル47 G12型から川崎ヒューズ式369型に更新され、現在十一機（近く十二機に増機予定）にて教育を行っています。



ビーチクラフト式E33型



川崎ヒューズ式369型

一方、飛行機も昨年度まで二十年近くに互り使用されてきた富士重工式FA-200型に替わり、今年度からビーチクラフト式E33型に更新されました（現在八機）。この機体は、近代化された各種装備品を有し、脚が完全引き込み式となるなど、より高度な教育が可能となりました。新機種に入れ替わり、寂しさを感じられている同窓生もいらつしやると思いますが、ベル47もFA-200も一機ずつですが残っておりしますのでご安心ください。

航空整備科では、これら新機種に対応して教育機材、マニュアル等の充実を図り、今後もさらに航空整備士を養成して行きたいと考えております。

航空電子制御科

航空電子制御科は今年度、第十四期生を迎えました。平成三年四月に学科名を航空電子機械科から、航空電子制御科に改め、学科長も平成四年四月に、平井清三郎学科長に替わり、杉山武先生が新学科長として就任されました。

現在、アビオニクス教育の充実を図るため、VOR-IISシステム実習装置、DMEベンチテスター、トランスポンダ実習装置等が購入され、学科の特色を出した、航空電子装置の実習に力を入れて取り組んでいます。

さらに航空宇宙にも目を向け、平成三年よりアマチュア無線をベースとする、衛星通信が構築され、主にパケッ



アビオニクス実習装置

ト通信による文字伝送を衛星を介して運用し、また文字伝送のみならず、衛星からの画像情報を取り入れ解析する、画像処理用グラフィックボードも導入され、より高度な実習教育が行えるよう設備の充実が図られています。

また、学科のスターガンである、空飛ぶ3C（コンピュータ・コントローラ・コミュニケーション）にも力を入れ、新たにフライトシミュレータを導入し、現在最も必要とされる、コンピュータを介し装置をコントロールする実習も、より進んだ形で行われるようになりました。

このように航空電子制御科ではハイテク化される時代にマッチした内容の教育が行われ、益々発展を続けています。



フライト シミュレータ

航空生産科

平成二年四月、学科名を航空技術科から航空生産科に改名し、翌年には、これまでの学科長木須隆先生に替わり、深川襄先生が二代目学科長に就任されました。

授業の充実を図るものとして、実習科目の設計・製造・検査部門に力が注がれ、設計部門では、本館三階製図教室の一面に、パソコンベースの三次元CADが導入されました。これらは、すべてネットワークで結ばれ、課題の配布などはコンピュータ同士で行われるといった、画期的な授業展開が図られています。現状では、試験段階のた



RV-4

め四台のみの導入となつていますが、将来的には四十台程度を導入する計画です。

製造部門では、平成元年に購入した「RV-4」も平成五年にはエンジンを購入し、現在調整の段階に入りつつあります。実機を自らの手で製作すること、楽しみのある実習となつていきます。また昨年は、二機目を購入し、一機目が完成した後に製作が開始されます。

検査関係も授業時数を増加し、特に非破壊検査科目では、本格的な実習が行えるよう検査機器等設備が充実され、今後、様々な資格を取得できる体制を取つてゆく計画です。



CADシステム

航空生産科も七年度で早くも十周年を迎えますが、今まで築き上げてきた科風や伝統を大切に、発展するように努力したいと考えております。

みんなの広場

第一期生の
同期会開催

航空整備科一期生三十四名は、卒業してから既に二十三年が経過し、外見的に頭は白く薄く、腹は出て、中年と言わざるを得ない年代となつてきました。

その間学校も、愛知県江南市から岐阜県関市へ移転し、現在の校舎を知らない卒業生もいるため、久しぶりに現校舎を見学する同期会の開催を企画しました。

三十四名中二十三名が、北は東京から南は沖縄までと、遠方より多数が参加し旧校舎跡から現校舎を見学し、まさに隔世の感を実感したと思えます。

卒業して三十数年を経た今日でも、こんなにも多数が全国から参加する同期会の魅力とは一体何なのでしょうか？

それぞれの各期生の皆様も、多いに同期会等を開催されたいかがでしようか。



ラグビー部OB会開催

(八月五〜六日)

夏合宿中に数河高原にてOB会を開催します。OBの方々の希望により土・日曜日に開催出来る様に合宿も延長し学生も期待しています(学生は八月二〜六日)。恐れいますが、全ラグビー部OBの方は、七月二十日までに参加・不参加をはがき又はTELにて監督(梶田)まで連絡して下さい。

中日本航空専門学校

〒501-73 岐阜県関市迫間一五七

TEL〇五七五二四一二五二二

監督自宅

TEL〇五八三二八四一五二七